

【特別支援学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立伊万里特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	取組内容8項目のうち、最終結果でのAは7項目、Bは1項目であった。目標は、ほぼ達成はできていると考える。 ・B評価をつけた「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」については、来年度以降もあらゆる手立てを構築し、少しずつでも進めていかねばならない。 ・次年度も現在の取り組みを継続しながらよりよい学校生活や学習環境の提供、職員の専門性の向上を図っていきたい。
2 学校教育目標	将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。
3 本年度の重点目標	①児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。 ②進路指導の充実と努め、キャリア教育の実践を積み重ねて卒業後の自立的な社会生活を目指す。 ③健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。 ④児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元氣よく」「たくましく」生きる力を育む。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	◎児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による自立を目指す力の定着	◎「自分の子どもにできることが増えた」と回答する保護者85%以上を目指す。 ◎「本校の学校教育目標やめざす子ども像を踏まえ、日々の教育に生かすことができた」と回答する教職員85%以上を目指す。 ◎「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員85%以上を目指す。	・一人一人の特性を丁寧に捉え、適切な指導・支援を行う。 ・年度初めの研修会で本校の教育の方向性を確認し、月1回の学部研修会によって授業実践に取り組む。 ・個別の教育計画の研修会や校内研究、自立活動の研修等を通して理解を深め、日々の教育活動に取り入れていくように、担当する分掌で啓発、推進を行う。								自立活動部 研究研修部 各学部主事
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「児童生徒が進んで登校し学校を楽しんでいる」と回答する保護者85%以上を目指す。 ◎「安全、安心して楽しいと感じる学校生活を提供できている」と回答する教職員85%以上を目指す。	・児童生徒が楽しく充実した学校生活を送るよう、研修会や職員同士の学びを通して授業の改善、学校生活の改善に努めていく。 ・児童生徒と職員の信頼関係を構築し、安心して関わることのできる雰囲気を作るよう努める。								生徒指導部 各学部主事
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	◎いじめの基本方針の確認や研修会を通して、いじめの定義等を再確認し、早期発見、早期対応ができるようにする。 ◎年2回のアンケート調査を行い、問題の早期発見を目指す。 ◎「保護者と連携して、いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進している」と回答する教職員85%以上を目指す。	・児童生徒の変化を見逃さないようにする。 ・学級活動や生徒会活動、職員朝礼や会議等で啓発を行い、学校全体でいじめ防止への雰囲気づくりに取り組む。 ・委員会だけでなく、各学部でも弾力的に対応することで早期の発見、解決を図る。 ・児童生徒からの発信を見逃さないように丁寧に心身両面の把握をする。								生徒指導部
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」 健康的な学校生活の提供	◎「健康に過ごせた」と回答する保護者85%以上を目指す。 ◎「規則正しい学校生活が提供できた」と回答する教職員85%以上を目指す。	・見通しを持ちやすい週日課表を作成し、同じ流れになる生活を提供する。 ・健康診断において疾病等の早期発見、治療へとつながるように、受診時の児童生徒の適切な支援のため担任と協力、連携をする。 ・保護者と連携して児童生徒の体調管理を行う。								保健安全部
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	◎「センター的機能について本校職員の意識を高め、何らかの役割を果たしている」と回答する教職員80%以上を目指す。 ◎地域のコーディネーターや園長を対象にセンター的機能の取り組みを紹介する。また研修会を年に1回開催する。	・職員のセンター的機能に関する理解を深められるよう、機会があるごとに紹介したりする。 ・年度初めに地域の園の園長や諸学校のコーディネーターにセンター的機能の取り組みを紹介し、地域のニーズに合った研修会を年1回計画して案内をする。								相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ◎「働き方改革を意識し、効率的に業務を遂行している」と回答する教職員80%以上を目指す。 ◎月時間外在校時間を、前年度より削減を図る。	・定時退勤推進日等での管理職による呼びかけの強化 ・早下校日の設定等による事務的作業時間確保 ・分掌業務の精選と役割分担の見直し。 ・学校の資産(保有している教材や物品)の積極的活用および人材の活用 ・会議への参加者の絞り込みや弾力的運用								管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○進路指導とキャリア教育の充実	○児童生徒及び保護者ならびに学校職員が、将来の自立と社会参加を意識して学校生活に取り組むために必要な、進路指導・支援とキャリア教育に関する情報や研修の提供	◎「将来を考えるための情報提供がなされている」と回答する保護者が85%以上を目指す。 ◎「児童・生徒の将来の自立と社会参加を意識して指導・支援をしている」と回答する職員が85%以上を目指す。	・自立と社会参加を意識して個別の教育支援計画を活用して一人一人に応じた教育実践を行う。また、進路に関する取り組みの方向性や支援について、保護者、担任の共通理解が深まるよう、面談等の機会を充実させる。 ・PTAと連携して研修を運営し、保護者の参加率向上につなげる。 ・進路指導への取り組みを資料やホームページを活用して取り組みの周知し、理解を広げる。								
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望											